



# I was a Sari インパクトレポート

2025年6月

I WAS A SARI 発行

エシカリージャパン合同会社 訳・編



# 調査の枠組みと手法



I was a Sari は、2nd Innings Handicrafts Pvt Ltd が運営する事業で、ムンバイのインフォーマルなテキスタイル産業において、女性に対して「体系的で、尊厳があり、スキルに基づいた」生計手段を提供しています。使われなくなったサリーを、現代的なアパレルやアクセサリーへと再生させることで、雇用を創出しています。女性を「非公式な労働者」から「正式に認められた職人の仕事」へと移行させると同時に、循環型で包摂的なファッション経済の発展を推進しています。

I was a Sari は、社会的投資ファンドの **Upaya**、およびインパクト評価専門のコンサルティング会社の **Social Lens** と共に、従業員の生計にどのような影響を与えているかを理解するための調査を実施しました。評価は、Upayaの「尊厳ある仕事フレームワーク」に基づいて下記の要素から設計されています。

## 安全性

健康・安全などの  
職場での福利厚生

## 安定性

収入の質と財務的回復力

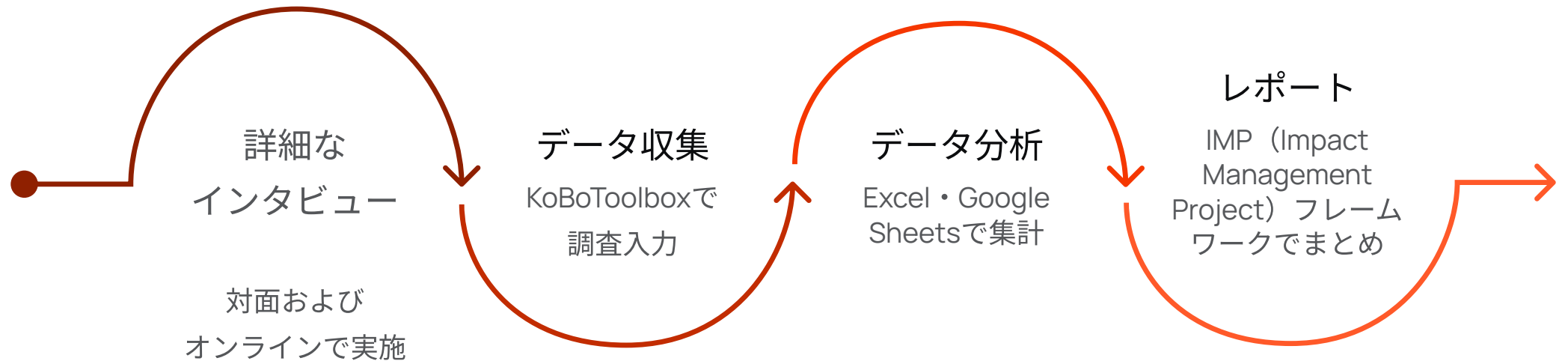
## 包括性

年齢、性別、場所による差  
別のない雇用機会

## やりがい

個人のエンパワーメントと  
昇進機会

# データ収集および分析プロセスについて



本調査では、結果の信頼性を確保するため、信頼水準95%、誤差範囲±7%の条件でサンプルサイズを設定しました。2025年3月時点で報告されている約300件の雇用数を母集団とした場合、必要な最小サンプル数は119名と算出されました。実際の調査では、この基準を上回る126名の従業員を対象に、対面およびオンラインによるインタビュー調査を実施しています。



セクター概要

# ムンバイの雇用動向と I was a Sari について

## ムンバイの労働市場

ムンバイには、衣服の縫製、刺繍、仕上げ、在宅での出来高払い作業に従事する大規模な非公式女性労働力が存在します。請負業者主導のサプライチェーンを通じて、収入の安定性や労働者保護が限られています。

## I was a Sari のモデル

I was a Sari は、ムンバイの非公式エコシステムにある女性に、構造化された尊厳ある技能ベースの生計機会を提供しています。愛用されたサリーを現代的なアパレルやアクセサリに変えることで、循環型で包括的なファッション経済を推進しています。



# エグゼクティブサマリー

1,124%

収入の増加

全従業員の平均日収が  
INR 42からINR 514に増加

98%

高い満足度

I was a Sari に参加してから  
高い仕事満足度を経験

99%

スキル習得

I was a Sari との関わりを通じて  
新しいスキルを学習

82%

福利厚生

緊急時の財政支援を含む  
福利厚生を受給

94%

目標達成

仕事が最終目標の達成に  
役立っていると感じる

## 尊厳ある生計手段の実現

強い収入の成長、高いスキルの習得、そして家庭環境における具体的な改善は、I was a Sari が女性に対して、安定的で、尊厳が守られ、かつエンパワーメントにつながる生計手段を提供することに成功していることを示しています。

## 女性の労働の可視化と持続可能な雇用モデルの構築

インドのアパレル・テキスタイル産業において女性の労働が十分に評価されず不安定な状況に置かれてきた中で、I was a Sari はアップサイクル事業を通じて、女性の仕事を正式な経済活動として可視化し、安定した収入と尊厳ある雇用を提供する持続可能な仕組みを構築していることを示しています。



♡ 変化の物語

# ある従業員の声

私はI was a Sari で10年以上働いています。以前は家政婦でした。**収入は低く、尊敬もありませんでした。**しかしここでは安定して稼ぐことができ、職場環境も良いので第二の家のように感じます。

小さなデイケア施設があるので、子どもたちは学校の前後に滞在できます。そのサポートは**私のような母親にとって大きな違い**を生みます。シングルマザーや未亡人も周りにはたくさんいるのです。

収入以上に、この仕事は私に自信と帰属意識を与えてくれました。地域の人々は今、私を単なる労働者ではなく**職人**と呼んでいます。それがすべてを意味します。

ー 女性従業員、30歳



従業員プロフィール

# 従業員の特徴

調査対象の従業員は、品質管理、裁断、縫製、梱包などの役割を担っています。一部はスーパーバイザーや会計士として活躍しています。

平均年齢

39歳

平均勤続年数

5年

移民労働者

34%(43名)

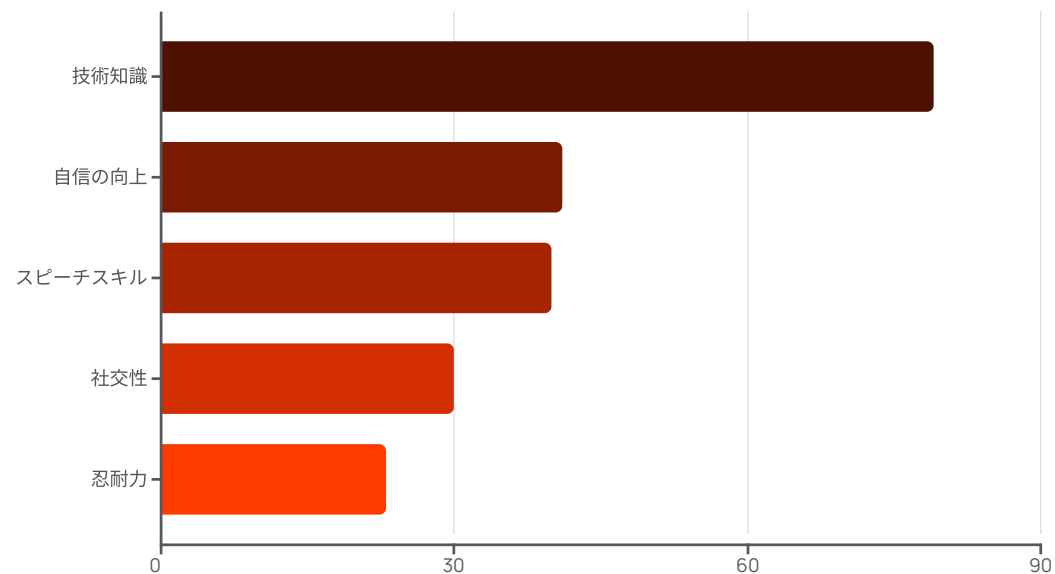
女性従業員

95%(120名)

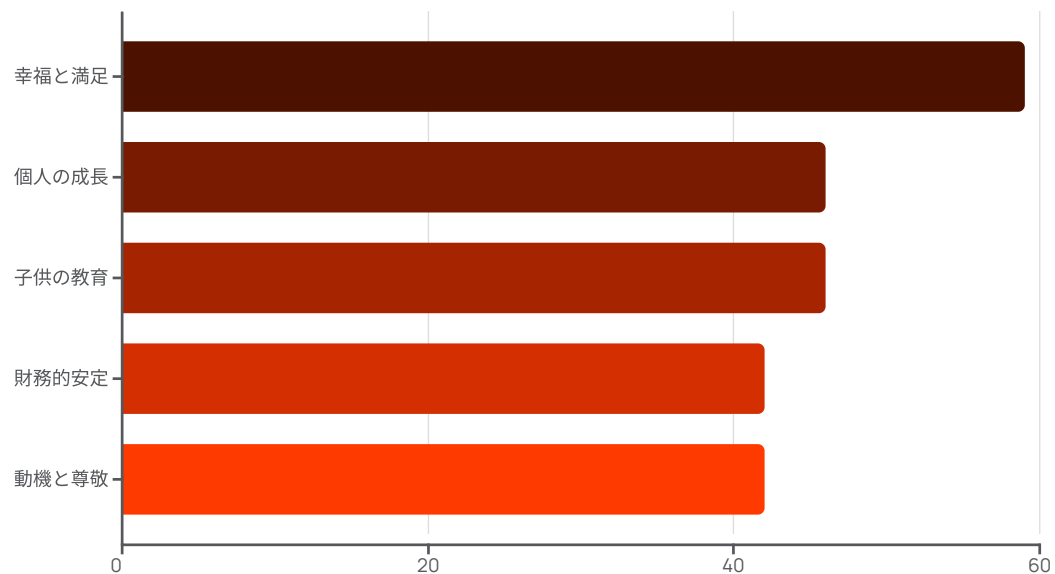
調査対象の従業員の53%は中等教育（Class VI～X）まで修了しており、23%は高等教育（Class XI～XII）まで進学していました。10%は大学卒業者でした。また、13%は初等教育のみ、もしくは教育を受けていない人であり、その内訳は、就学経験がない人が7%、初等教育（Class I～V）までの人が6%でした。

# 女性職人が達成できること

## 習得したスキル



## 自己認識の変化



調査結果は、構造化された尊厳ある雇用が、生計の安定だけでなく、女性職人の自己価値と主体性の向上にも貢献していることを示しています。



# 従業員と世帯の財務状況

514

平均日収(INR)

従業員の平均日収、うち99%が

I was a Sari からの収入

74%

定期的な貯蓄

従業員が定期的に貯金できている

3,990

月間世帯貯蓄(INR)

平均月間世帯貯蓄額

## 世帯の平均日収

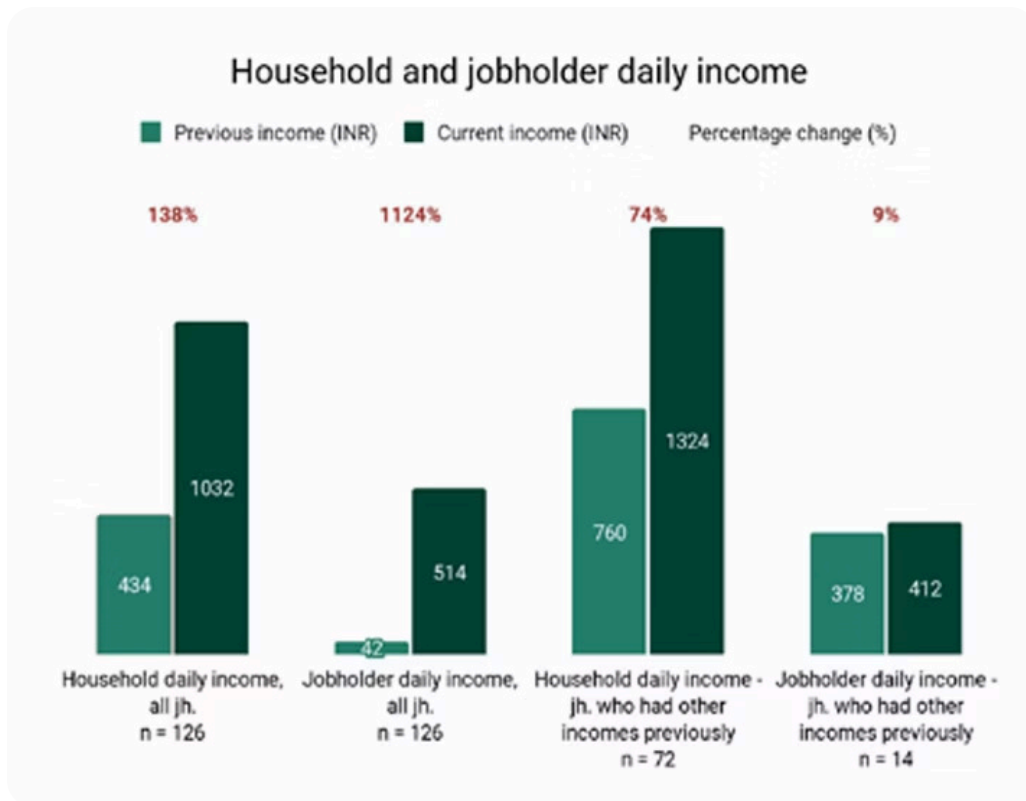
INR 1,032(USD 12)、そのうち56%がI was a Sariからの収入を占める。従業員の100%がアクティブな銀行口座を保有しています。

## ローン返済

ローン返済中の従業員のうち89%は、I was a Sariからの収入によってローン返済が可能であると回答しました。



# 収入の大幅な増加



平均して、**世帯の日収はINR 434からINR 1,032に増加**し、138%の上昇を記録しました。一方、**個人の従業員収入はINR 42からINR 514に増加**し、12倍以上の増加を示しています。

I was a Sariに参加したことで平均日収は最低賃金を上回り、収入が安定。生活維持にとどまらず住環境改善が可能になりました。74%が自宅トイレを保有し、97%が恒久住宅に居住。45%が家電購入や家具新調、住居取得など具体的な改善を実施し、暮らしの質と安心感が高まったと評価されました。

これらの結果は、I was a Sariとの関わりが、特に初めて労働力に参加する女性にとって、**大幅な生計向上と収入の安定**を生み出していることを示しています。